

単元（題材）全体を  
見通して計画する

## 5 「指導と評価の計画」を立てる

### 単元（題材）ごとの計画を考える

☆1時間の授業の中で全ての観点を評価しなければならないか？

1 単元時間の授業の中で全ての観点を評価することは大変困難なことです。評価結果を記録する機会を過度に設定することがないように、1 単元時間の中で評価する観点が1～2 観点となるよう設定することが適切です。

単元（題材）によってそのねらい（身に付けさせたい力）は異なります。例えば、外国語の単元で「説明文」は概要及び詳細の理解と表現を、「物語」は概要及び心情の理解と表現をねらいとする、といった具合です。つまり、授業計画を立てるとき1 単元時間ごとに考えていくのではなく、単元（題材）というまとまりで考えた方がねらいを実現しやすくなります。

### ねらいの実現を示す評価規準を考える

単元（題材）のねらいが実現されたと考えられる単元（題材）の評価規準を観点別に設定します。そして、ねらいをどのように実現していくか、生徒が学習を積み重ねていくプロセスを考え、1 単元時間ごとに具体的な評価規準を設定し、単元（題材）の中に適切に配置することが大切です。

### 学習活動を考える

設定した評価規準を実現するための学習活動を考えます。単元（題材）全体の流れの中で、それぞれの授業がどのような位置付けにあるべきか、個々の授業のつながりを踏まえて考える必要があります。教科や単元（題材）によっては評価規準と学習活動の配置を同時に考えていく場合もあります。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 多様な生徒の実態を踏まえた単元（題材）による授業構想

やる気を引き出す活動を展開するために、次のような内容を取り入れてみましょう。

- ①生活につながる内容
- ②経験や既習内容がいかせる内容
- ③探究心を引き出す内容
- ④驚き・発見・疑問が生まれる内容 など → 1章-3

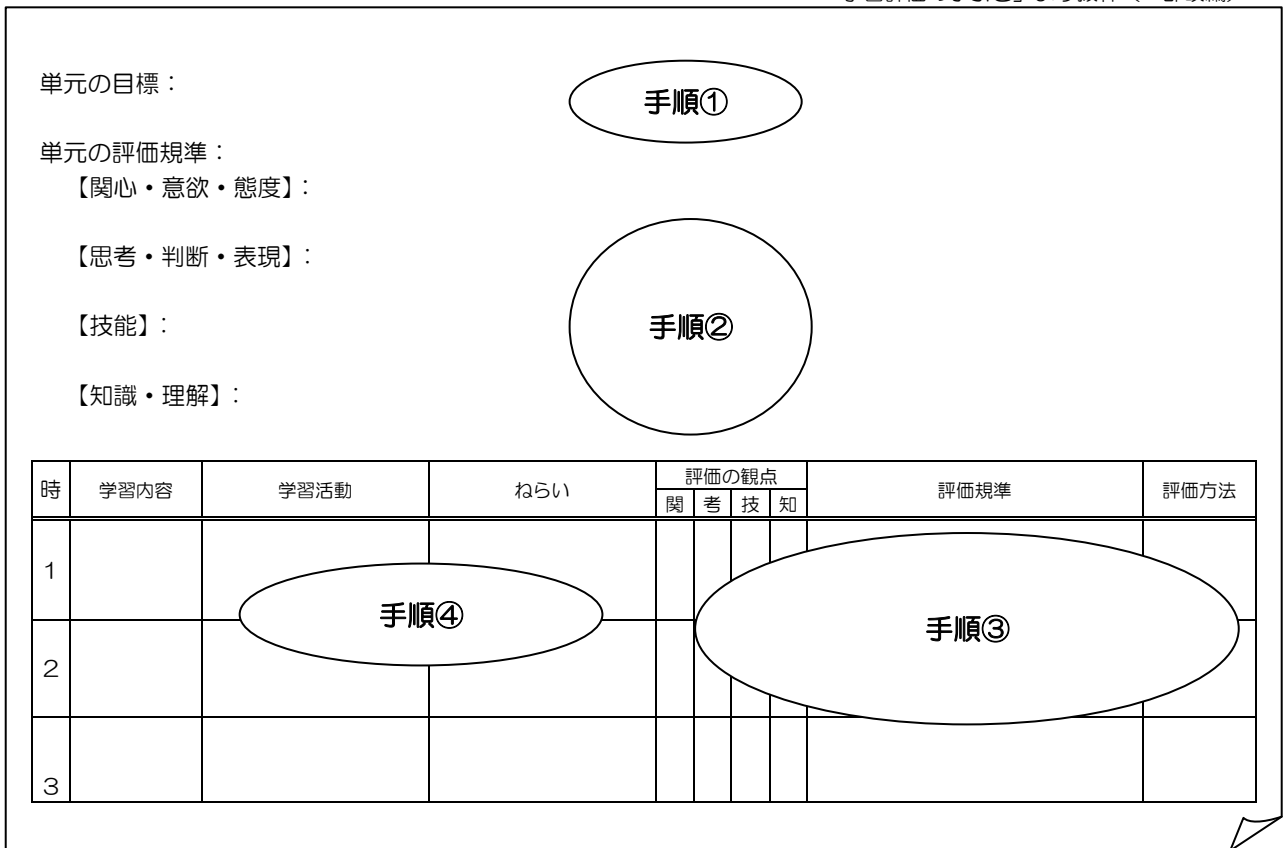


## 単元（題材）による「指導と評価の計画」

単元（題材）による「指導と評価の計画」を立てるということは、生徒の学びのプロセスをデザインすることであると言えます。

- 手順① 各教科の目標・テーマを基に、各単元（題材）で身に付けさせたい力を明確にする。
- 手順② 目標が実現できた状況を想定し単元（題材）の評価規準を設定する。
- 手順③ 1 単位時間ごとにどの観点を評価していくか、具体的な評価規準を設定し、評価の方法を決める。重視する評価の観点は、単元（題材）を通して、バランスよく設定する。
- 手順④ 評価規準を実現するための学習活動を決める。
- \* 手順③④は、相互の整合性を意識して、一体的に計画する。

「学習評価の手引き」より抜粋（一部改編）



具体的な記述の例は、参考資料－2（111 頁）をご覧ください。

### 単元（題材）の特性と観点別評価

観点別評価について、1 単位時間の中で全ての観点を盛り込む必要がないのと同様、1 単元（題材）の中でも全ての観点を盛り込む必要はありません。観点の特性と単元（題材）で扱う教材の特性を考え合わせ、ある観点に特化して扱う単元（題材）もあるということです。ただし、年間を通した計画の中でそれぞれの観点がバランスよく配置されていなければならないことは言うまでもありません。